

KiKiの広場

2021年 2月 1日
cafe NO.124
KiKi



1月は大雪に見舞われたり、びっくりするほど暖かかったりと、気候に振り回された月でした。今年の立春は2月3日。これまで36年間ずっと2月4日でしたが、3日になるのは124年ぶりだそうです。立春は春の訪れ、1年で一番寒い時期と言われる今ですが、暦の上では春が始まります。もう少し辛抱して、もう少し頑張っ、世界中に希望の春が、少しでも早く訪れることを願っています。

2月の予定

休館日	9(火)
定休日	毎土・日・月曜日
臨時休業日	23日(火)



「今月のケーキ」・・・「チョコレートケーキ」 350円

柔らかいココアスポンジに、カカオ分62%の甘さを抑えたチョコレートクリームを重ね、アクセントのくるみとチョコレートクランチの食感の、絶妙なバランスが楽しめる本格派チョコレートケーキです。



今月のお気に入り・・・「寒い12月を楽しむ絵本」

～「チョコレート屋のねこ」「まめっこころころ」「雪の上のなぞのあしあと」「そいあそび」「つるにようぼう」などなど～



「チョコレート屋のねこ」は、さびれたチョコレート屋の堅物のおじいさんを、なんとか笑わせたいと頑張るねこのお話です。ねこのおかげで、八百屋さんやパン屋さんなどがやってきて、次々と新商品を生み出していきます。その完成したお菓子がとってもきれいで美味しそう。イラストの美しさと、おじいさんを思うねこの気持ちが、甘くて優しい気持ちにさせてくれます。「まめっこころころ」は、「地蔵浄土」と呼ばれている民話で、「おむすびころりん」と「こぶとりじいさん」がくっついたようなお話です。1粒の豆を追って、土間の隅のねずみの穴に入ってしまうという、昔ばなしの不思議さ面白さが味わえます。



今月の本棚・・・「読み比べてみたい絵本」

～「白雪姫」「灰かぶり」「おやゆびひめ」「ヘンゼルとグレーテル」「人魚姫」「ねむいひめ」「ラフンツェル」「ゆきむすめ」など～



同じ昔ばなしでも、訳と絵でぜんぜん違ったものになります。中には悲しくなるくらい脚色してある話や、漫画チックな絵など、子どもたちには絶対手に取ってほしくないものもあります。「白雪姫」の本を今回4冊紹介していますが、絵は、「アンジェラ・バレット」「いわさきちひろ」「バーナデット・ワッツ」「ワンダ・ガアグ」です。どれも全体的に、グリムの原作に忠実ですが、挿絵で私が惹かれるのは、「アンジェラ・バレット」と「いわさきちひろ」です。どちらも白雪姫の誕生前に母親が雪の上に落とした数滴の血が描かれています。白と赤のコントラストが幻想的ではかなげでとても美しいです。ただバレットの本の結末が、原作とは違っています。その理由が訳者のあとがきに書かれていますが、昔ばなしは創作絵本とは違います。やはり原作を大切にしてほしいなど、私は思いました。「灰かぶり」とは、「シンデレラ」のことです。シンデレラが、なぜ灰かぶりと言われるのか、舞踏会には3回行ったことなど、原作に近い絵本に触れてほしいと思います。



ほっとフレイク

ヒストリアのアイドル!! その5・・・いつも笑顔で迎えてくれるちょっぴりお話上手になった Kちゃんですが、最近では固有名詞で呼んでくれるようになりました。木曜日カフェ担当のIさんには、「けーしゃん!」。私のことは、文字にすると難しいですが、「な～やしゃん!」でしょうか。顔が見えなくなると、「な～やしゃん! な～やしゃん!」と連呼してくれます。(^^)v お母さんのKさんは、元気いっぱいKちゃんとうまくつきあひながら、受付の仕事をしてれています。きっと大変なことも多々あると思いますが、この場所での経験がきっとこれからの生活に、楽しく繋がっていくことと信じています。もちろん、私たちスタッフにとっても。(^^)-☆

